

# 8 分割後期・一次 国 語

## 国 語

注 意

- 1 問題は **1** から **5** までで、12 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五〇分で、終わりは午前九時五〇分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙にHB又はBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使って明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えは**特別の指示**のあるもののほかは、各問の「ア・イ・ウ・エ」のうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号の○の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 6 答えを記述する問題については、解答用紙の決められた欄からはみ出さないように書きなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
- 8 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に書き、その数字の○の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

1

次の各文の――を付けた漢字の読みがなを書け。

- (1) 現地に赴いて地質調査を開始する。
- (2) 初めて栽培したミニトマトが実る。
- (3) 気温の上昇に伴って薄着の人が増える。
- (4) アンケートを実施して現状を把握する。
- (5) 市内を循環するバスが桜の並木道を走る。

2

次の各文の――を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書け。

- (1) 運動後にムギチャで水分を補給する。
- (2) 豊かな自然の中のびのびとくらす。
- (3) 通信衛星がウチュウを周回する。
- (4) 絹糸を使って複雑な模様をオる。
- (5) 学校の中庭に花壇をモウける。

3

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。

高校に入学した愛奈まなのクラスでレクリエーションとしてバスケットボールが実施された。運動することに消極的な愛奈は見学していたが、縦横無尽に動き、活躍している羽瑠はるから誘われ、同じチームのメンバーとして試合に参加することになった。

## 掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

---

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

---

掲載許諾申請中

# 掲載許諾申請中

(藤ノ木優「スウィッシュユ！」による)

〔問1〕 足元に跳ねるボールを慌てて捌つかんで胸元に構え直す。とあるが、

(1) この表現から読み取れる愛奈の様子として最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 実際にコートに立つことで、バスケットボールの面白さに気づき始め、少しでも早くドリブルをして相手を抜こうとしている様子。

イ 足元にあったボールを胸元に構えて冷静に周囲の状況を確認することで、相手の隙をつくようなパスを狙おうとしている様子。

ウ デイフェンスが離れているため、今なら簡単に得点することができると考え、シュートの準備をしている様子。

エ 慣れない状況で思いどおりにならないことに焦りながらも、必死にプレーを続けようとしている様子。

〔問2〕 愛奈がボールを持つと、羽瑠から光の道が延びる。とあるが、この表現について述べたものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

(2)

ア 派手なプレーで愛奈に自分の技術を披露する羽瑠の様子を、慣用語を用いることで躍動的に表現している。

イ 羽瑠がどのように動くかを考えてプレーするようになった愛奈の様子を、たとえを用いることで印象的に表現している。

ウ 成功する確率の高いシュートが選べるように愛奈へパスをする羽瑠の様子を、丁寧に描写することで説明的に表現している。

エ 羽瑠と関わることなく一人でプレーするようになった愛奈の様子を、細部まで描くことで写実的に表現している。

〔問3〕 一番のコンビネーションが決まったことに驚いて羽瑠を見ると、

(3) これまで以上に輝いた笑顔が返ってきて、心が熱くなった。とあるが、このときの愛奈の気持ちとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア これまでになく羽瑠と息が合ったことに驚くとともに、羽瑠から喜びに満ちあふれた反応が得られたことで高揚する気持ち。

イ 羽瑠に初めてパスが通ったことに驚くとともに、もっとできるという羽瑠の表情を見て、互いのさらなる才能の開花を確信する気持ち。

ウ 自分が羽瑠と同等の技術をもつことに驚くとともに、意図が伝わり喜ぶ羽瑠の笑顔を見て、やっと理解できたことを恥ずかしく思う気持ち。

エ 先の展開を確実に予測できる自分の才能に驚くとともに、羽瑠の笑顔を見るためにもっとパスを追求していこうと決意する気持ち。

〔問4〕<sup>(4)</sup> いままで感じたことのないような葛藤が、心の中で敵<sup>うね</sup>った。とあるが、愛奈がこのように思ったわけとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 常に多くの選択肢がある羽瑠にაცოგაれる一方で、自分のように選択肢を絞る安定した生き方を羽瑠に伝えたいとも考えているから。

イ 挑戦を続けている自分が他人を参考にすることははないと思う一方で、

羽瑠のように堅実な行動を積み重ねて活躍したいとも考えているから。

ウ 自分の生き方に疑問を感じるものの変えることは難しいと思う一方で、羽瑠のように挑戦したいという気持ちもわき上がっているから。

エ 不利な状況を強引さで突破する羽瑠に疑問をもつ一方で、いまさら羽瑠の生き方を変えるのは難しいことだとも感じているから。

〔問5〕<sup>(5)</sup> たった数秒が、永遠にも感じられた。とあるが、この表現から読み取れる愛奈の様子として最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 放ったボールがリングに何回も当たっていることに投げやりになり、慣れないバスケットボールを早く終わらせたいと思っている様子。

イ なかなか入らなかったシュートが決まって羽瑠と共に喜び合うことがあまりに嬉しく、この瞬間を長く味わっていたいと願っている様子。

ウ すでに手を離れたボールの行方はどうすることもできないと諦め、リングに弾かれ続けるボールから視線を外している様子。

エ 羽瑠から託されて打ったシュートが決まれば自分の生き方に変化が訪れるように感じ、思いを込めてボールの行方を見つめている様子。

#### 4

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（\*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

## 掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

---

掲載許諾申請中

# 掲載許諾申請中

〔注〕

組版くみはん

——文字や図などをページに配置する作業のこと。

（高安啓介「近代デザインの美学」による）

# 掲載許諾申請中

〔問1〕<sup>(1)</sup> 今から振り返ると、美学はこれまで芸術について論じてきたように、じつのところ、芸術について論じるための用語について論じるむきがあった。とあるが、「芸術について論じるための用語について論じる」とはどのようなことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 芸術系の諸分野において、特に重要な用語として反省、促進、生成という言葉を取り上げてよいかを検討すること。  
イ 芸術系の諸分野において、美を美学として成り立たせるための用語をどのように現代に伝達するかを検討すること。  
ウ 芸術系の諸分野において、感性を伝達するための媒体となる用語をどのように理解したらよいかを検討すること。

エ 芸術系の諸分野において、感性論から芸術の哲学まで扱われていた用語を学問としてよいかを検討すること。  
〔問2〕<sup>(2)</sup> 一番のねらいはここにある。とはどのようなことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 歴史の用語の翻訳に着目することで、近代主義と前後の時代を理解させることが人と人との伝達における最大の目的だということ。  
イ 用語の意味や使い方を多方面から検討することで、当人同士の理解を進展させることが人と人との伝達における最大の目的だということ。  
ウ 近代の用語を作り直すことで、作者と鑑賞者との議論において意見の統一を図ることが人と人との伝達における最大の目的だということ。

エ 用語を調べ文化の対応関係を明確にすることで、互いに特定の考えを定着させることが人と人との伝達における最大の目的だということ。

〔問3〕 この文章の構成における第五段の役割を説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア それまでに述べてきた内容に続けて、次の論の前提を提示することで、文章の後半で述べる内容へと展開を図ろうとしている。  
イ それまでに述べてきた内容に基づいて、補足となる他の事例を重ねて述べることで、論に説得力をもたせようとしている。

ウ それまでに述べてきた内容について、対照的な主張を提示することで、それまでの話題の方向性を否定しようとしている。  
エ それまでに述べてきた内容をまとめることで、文章全体の意味を深めるとともに、論点の整理を図ろうとしている。

〔問4〕<sup>(3)</sup> 形象の内容もしくは形象の意味として読み取られるものは、けして芸術家の意図した内容とはかぎらない。とあるが、このように筆者が述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。  
ア 作品が人格として形象を伝達することで、まるで生きているように感じられるようになるから。

イ 形象の意味を作り手の意図として深読みし伝達していく主体は、芸術家を鑑賞する人々であると考えているから。  
ウ 芸術家の意識と社会の意識が反映されることで、形象の内容は芸術家と作品との密接さを弱めていると考えているから。

エ 形象のうちなる交通によって生み出される意味には、作り手が伝えたことと関わりなく背後にある社会も影響すると考えているから。

〔問5〕 国語の授業でこの文章を読んだ後、「送り手の意図を超えた意味を考える」というテーマで自分の意見を発表することになった。このときにあなたが話す言葉を、具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や「なども、それぞれ字数に数えよ。

5

次のAは、平安時代末期の歌人西行さいぎょうに関する対談の一部であり、Bは、「新古今和歌集」と西行のつながりについて書かれた文章である。また、あとの□の中のa、dは、それぞれBに含まれている和歌及び古文の現代語訳である。これらの文章を読んで、あとの各問に答えよ。  
（\*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

A

## 掲載許諾申請中

## 掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

---

B

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

(目崎徳衛・白洲正子「西行と芭蕉」による)

## 掲載許諾申請中

(山木幸一「西行の世界」による)

## 掲載許諾申請中

(「新 日本古典文学大系」による)

## 掲載許諾申請中

(久保田淳「後鳥羽院御口伝」による)

〔注〕

本歌取り——古歌の一部を引用して新しい歌を作る修辞法。

川田順——歌人。

一所不住——僧などが各地を行脚して、一か所に定住しないこと。

詞花和歌集——平安時代末期に成立した、六代目の勅撰和歌集。

世をすつる人はまことにすつるかは すとぬ人こそすつるなりけれ

——出家して俗世間を捨てた人は、本当に捨てたといえるだろう

うか。俗世間にとどまり成功を求めている人こそが、本当に

大切な自分自身を捨てているのだ。

千載和歌集——七代目の勅撰和歌集。

併称——一緒に並べてほめること。

「かりそめにいひちらされしあだなるたはぶれごとも、あはれなるところ多し」

——たまたま口に出して言い散らしたい加減な戯れ歌で

あつても、しみじみと心打たれるところが多いものだ。

許六離別詞——松尾芭蕉が門人の森川許六に送った餞別の言葉。

抒情詩——叙情詩と同じ。

〔問1〕<sup>(1)</sup> 白洲さんの発言のこの対談における役割を説明したものと

最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア 直前の目崎さんの発言を受けて、西行の和歌をよいと考える理由を付け加えて話題を深めようとしている。

イ 直前の目崎さんの発言を受けて、自分が考える西行の和歌の難しさを強調して話題を焦点化しようとしている。

ウ 直前の目崎さんの発言を受けて、西行の生き方に関する自分の考えを示して問題の所在を明らかにしようとしている。

エ 直前の目崎さんの発言を受けて、西行が新古今和歌集を代表する歌人であるという自分の考えについて共通理解を図ろうとしている。

〔問2〕<sup>(2)</sup> ただし、我々のあこがれとしては、生涯、旅をしていたというイメージがないと、魅力がない。とあるが、「生涯、旅をしていたというイメージがないと、魅力がない。」とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 人生を通じて東北から九州まで縦断する一度きりの旅をした人だったという印象がなければ、西行の魅力が失われるということ。

イ 高齢になるまで極地への旅を控えていたという印象がなければ、西行の魅力が失われるということ。

ウ 若い時に旅をして年を取って落ち着いたという印象がなければ、西行の魅力が失われるということ。

エ 一生を通して自由人であり旅人であったという印象がなければ、西行の魅力が失われるということ。

〔問3〕 Bの中の——を付けたア、エのうち、現代仮名遣いで書いた場

合と異なる書き表し方を含んでいるものを一つ選び、記号で答えよ。

〔問4〕<sup>(3)</sup> 生得の歌人とあるが、dの現代語訳において「生得の歌人」に相当する部分はどこか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア たやすく考えつきにくい趣向

イ 生まれながらの歌よみ

ウ 生半可な歌人

エ 真似<sup>まね</sup>などをすべき歌

〔問5〕 A及びBで述べられた、西行の和歌の特徴についてそれぞれ説明したものととして最も適切なものは、次のうちではどれか。

ア Aでは新古今和歌集の他の歌人とは異なっており、わかりやすく表現された和歌が多いと述べられ、Bでは和歌の本質を理解する後鳥羽院から真情のこもった作風だと絶賛されたと述べられている。

イ Aでは定家の和歌以上に新古今和歌集を代表する和歌が多いと述べられ、Bでは技巧的で新古今和歌集らしい作風だと俊成から認められたと述べられている。

ウ Aでは素人らしいわかりやすさが大多数の研究者に評価された和歌であると述べられ、Bでは絢爛な作風が何よりも魅力的な和歌だと述べられている。

エ Aでは専門的に研究しないと理解できないような和歌であると述べられ、Bでは定家の解説によって、ようやく世に認められた和歌だと述べられている。